

宮●咲ちゃんに
ナマ挿入ナマ中出し！

挿交っただのしいよね！
いっしょに挿交をたのしもうよ！

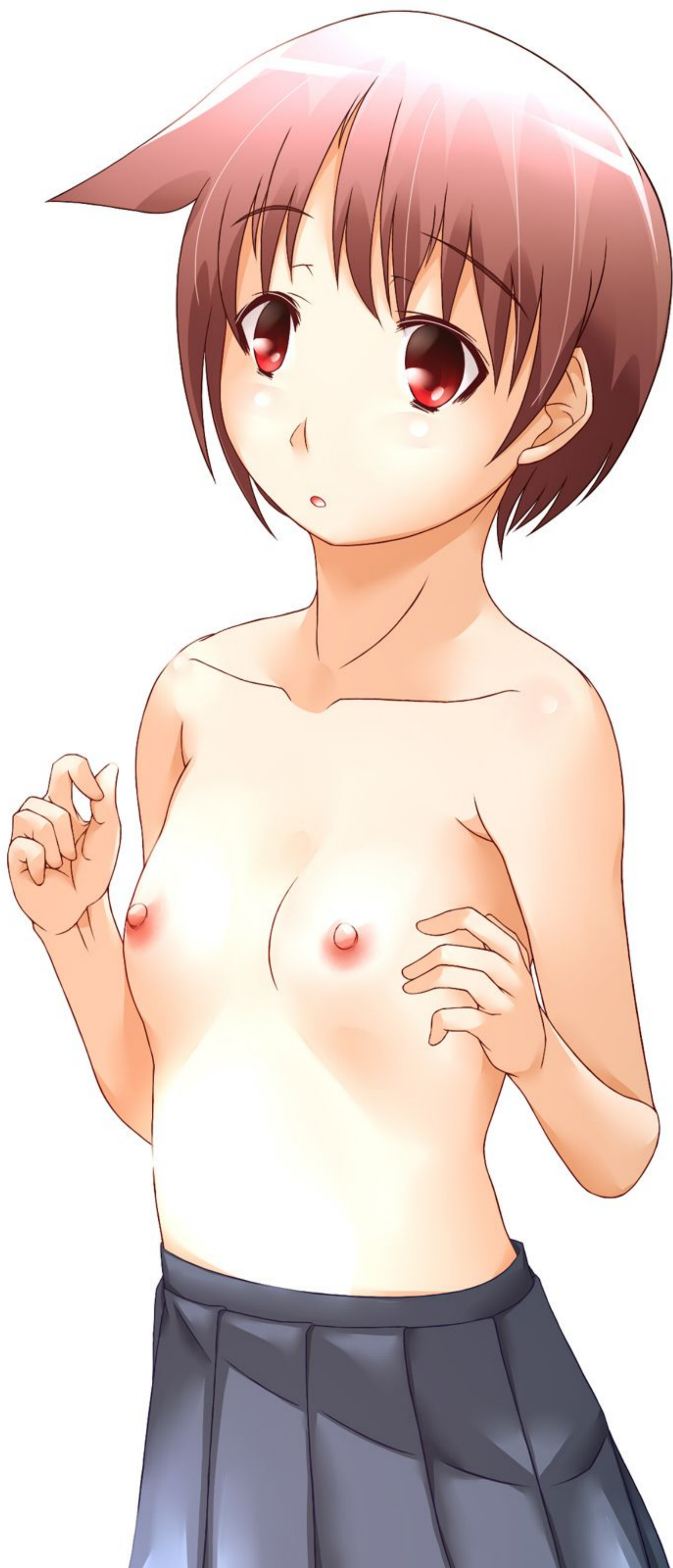
もっせセックスで

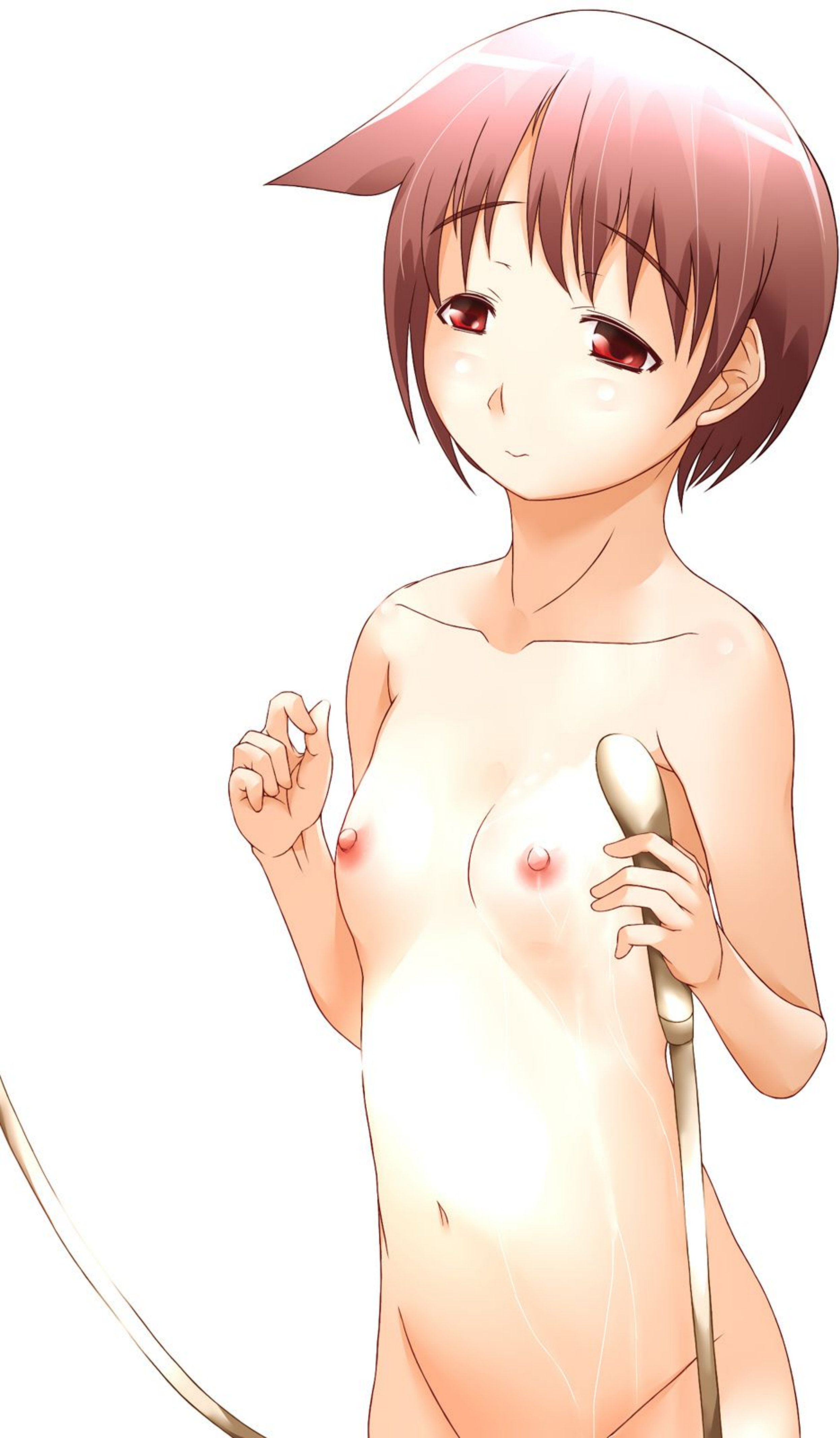
気持ちよくなりたいんです！



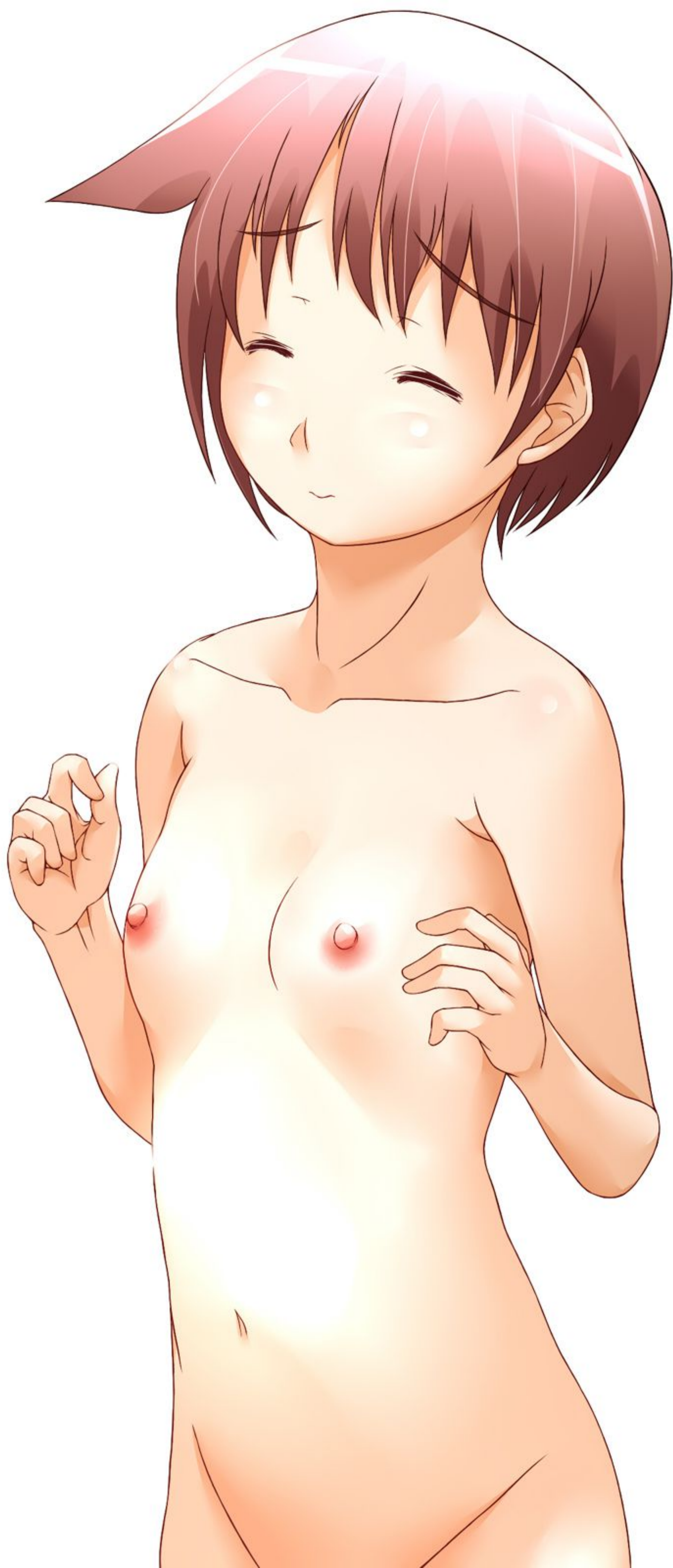


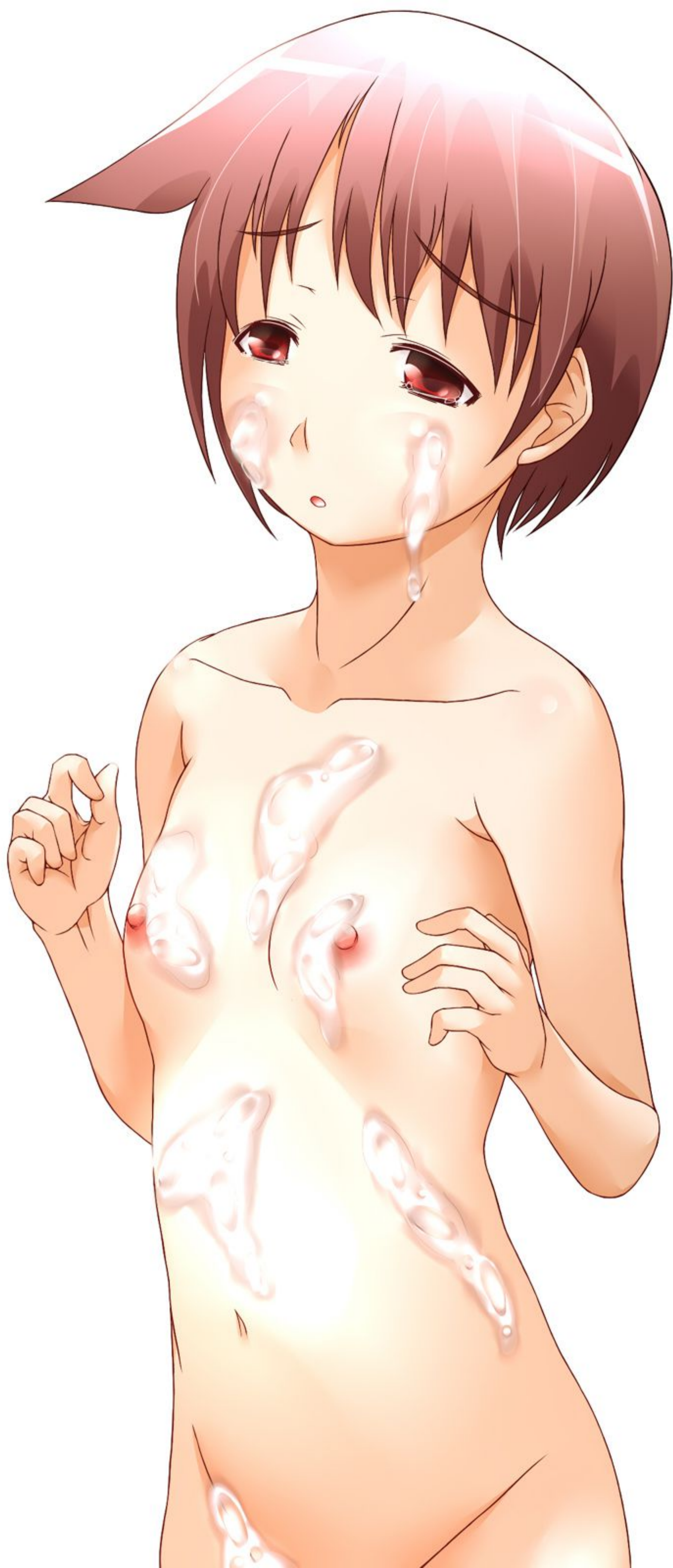














咲ちゃんのすべすべした肌に手の平を密着させて、太ももを下から上へとなでまわす。
股間は、薄紅色のいやらしいお肉がワレメからはみ出さないように、しっかり閉じている。



お股を左右に開いた咲ちゃん。はしたない格好で両手を添えて恥ずかしい穴を見せつける。縦に並んだ三つの穴が、ぐにゃいとゆがみ、ぽっくり開いては、またぴたいと閉じる。



興奮してきて、たまらず咲ちゃんの腰を力強く掴むと、激しいピストンを刻みつける。
挿入されるたびに震動が股間から伝わり、咲ちゃんの小さなおっぱいがぷるぷる揺れる。



何日分も袋に溜め込んだ大量の精液をマンコに注ぐ。抜き出して股間にもまき散らす。それだけでは飽き足らず、チンポを咲ちゃんの口にくわえさせ、もうひとしごきする。



連れ込まれたばかりなのに、さっそく上半身も下半身も精液まみれにされた咲ちゃん。
おまんこから排泄された白濁汁が、くさい糸を引いてシーツにたれ落ち、汚いシミをつくる。



龟头の段差で咲ちゃんの膣口をひっかいて、狭い穴が入りやすいようにと拡張する。
粘っこい愛液がどんどん分泌されてきて、膣口とチンコの境目に透明な泡がいくつも浮かぶ。



咲ちゃんの喘ぎ声を聞きながら腰を動かし続けたのち、膣に精液をたんまいと注入する。
しぼんだチンコをずるりと穴から引き出すと、まんことの間には透明な糸が何本も引かざる



うっとうしい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

うっとうしい
おっぱい
おっぱい

張りのないチンコを柔らかい内ももに挟んで、スリスリとしごいてくれる咲ちゃん。
充血してガキガキに固まった陰茎を満足そうに眺めて、うっとうとため息を漏らす。



体の真下から股間を突き上げると、咲ちゃんの背筋がくねくねと頼りなく曲がって跳ねる。お腹の中で千コをぐいぐい回して、まだ異物の挿入に慣れていない体を変えていく。



前に出された精液がまだ残っているであろう咲ちゃんの子宮に、白濁液をつぎ足す。
お腹いっぱい射精されて溜まった違和感のもとが、体の内側をどろどろと伝い落ちる。



結合した部分からぞくぞくと伝わる快感で、咲ちゃんの喘ぎ声に余裕が無くなっていく。
またもイってしまい、みっともなく腰を震わせる咲ちゃんの中へ、精液を大量に吐き出す。



初めての体位が新鮮だからか、咲ちゃんは少し大胆になり、密着した腰を揺らしてくる。千コノの先っぽが奥深くまで潜り込んで咲ちゃんの子宮口に到達し、ぐいぐいと圧迫する。



股間の圧着を繰り返すうちに快感はますます大きくなって、舌のろれつが回らなくなる。千コを激しく打ち付けられても、咲ちゃんのおまんこは柔らかく受け止めてくれる。



腰をガクガクとけいれんさせ、何度目かの絶頂を迎えた咲ちゃんの中に精液をぶっかける。達した余韻でしばらく体を小刻みに震わせている背中を、繋がったまま抱っこしてあやす。



咲ちゃんと抱き合っただけで、勃起を回復していた千コをいきなり挿入する。おまんこはむしろそれをずっと待ちわびていたらしく、満ち満ちた愛液で千コを迎える。



見つめ合い、何度も咲ちゃんと唇を重ねながら、下半身をうねうねと動かして快感を求める。咲ちゃんは上下のお口をびしょびしょに濡らしてよがい、体のあちこちをひくひくさせる。



感じまくる咲ちゃん表情を目の前で眺めつつ、柔らかいお腹の中心に精液を排泄する。やりまくっているとはいえ、近すぎて恥らう咲ちゃんの口を強引に吸い、唾液を飲ませる。



お尻の穴は大切な人のためにおきたいらしく、きっぱり挿入を拒む。

お尻の穴は大切な人のためにおきたいらしく、きっぱり挿入を拒む。

ほとんど弄ったことがないというアナルを亀頭の先でつつきながら、尻の肉をまさぐる。咲ちゃんは、お尻の穴だけは大切な人のためにとっておきたいらしく、きっぱり挿入を拒む。



アナルを断ったからか、マンコでもっと満足してもらおうと、慣れない腰を動かしてくれる。もどかしい性感に焦れて下から突き上げると、背中をくねらせて何度でもイってしまう。



千コは挿入の激しさに何度も滑って抜け落ちながら、ようやく咲ちゃんに精液を放つ。
抜けやすい体位だと知らない咲ちゃんは、自分の穴が緩んだせいかもしれないと心配する。



自分で動いてチンコを射精させたことが嬉しかったのか、咲ちゃんは積極的に次を求める。あどけない顔をしている咲ちゃんにやらしくチンコをおねだいされて、再び勃起を取り戻す。



咲ちゃんをいきなり押し倒し、精液で汚れたままのマンコに半勃起状態のチンコを挿入する。
腰を動かすうちに固さを取り戻し、そのまま咲ちゃんのマンコをオナホ扱いし続ける。



感じまくる咲ちゃんのアへ顔を眺めつつ、柔らかくほぐれた膣の感触を存分に堪能する。
咲ちゃんの中に潜り込んだチンコが粘膜をあちこち引っ掻き、感じ方まで丸裸にしていく。



射精されるまでの間に何度も繰り返しいかされたせいで咲ちゃんは力尽き、もうろうとする。おそらくもう精液の味が忘れられなくなるほどの量を子宮に注がれてしまっている。



後ろから腰を掴んで引き寄せると、咲ちゃんのお尻はチンコを挿入しやすいように上を向く。性感を期待する膣口からは愛液が漏れ出して、太ももまでびしょびしょに濡らしていく。



咲ちゃんの腰は、快感を得やすいようピストンに合わせて勝手に動くまでになっている。
穴をほじるたび膣の圧力が緩んだい締まったいを繰り返し、つられて肛門がひくひくする。



膣の熱くめかるんだ感触に煽られ、尿道口を子宮口に密着させ、たちまち射精する。
搾り出された精液の残いかすがお尻の上をすべい落ち、咲ちゃんの背中は一ぴくんと跳ねる。



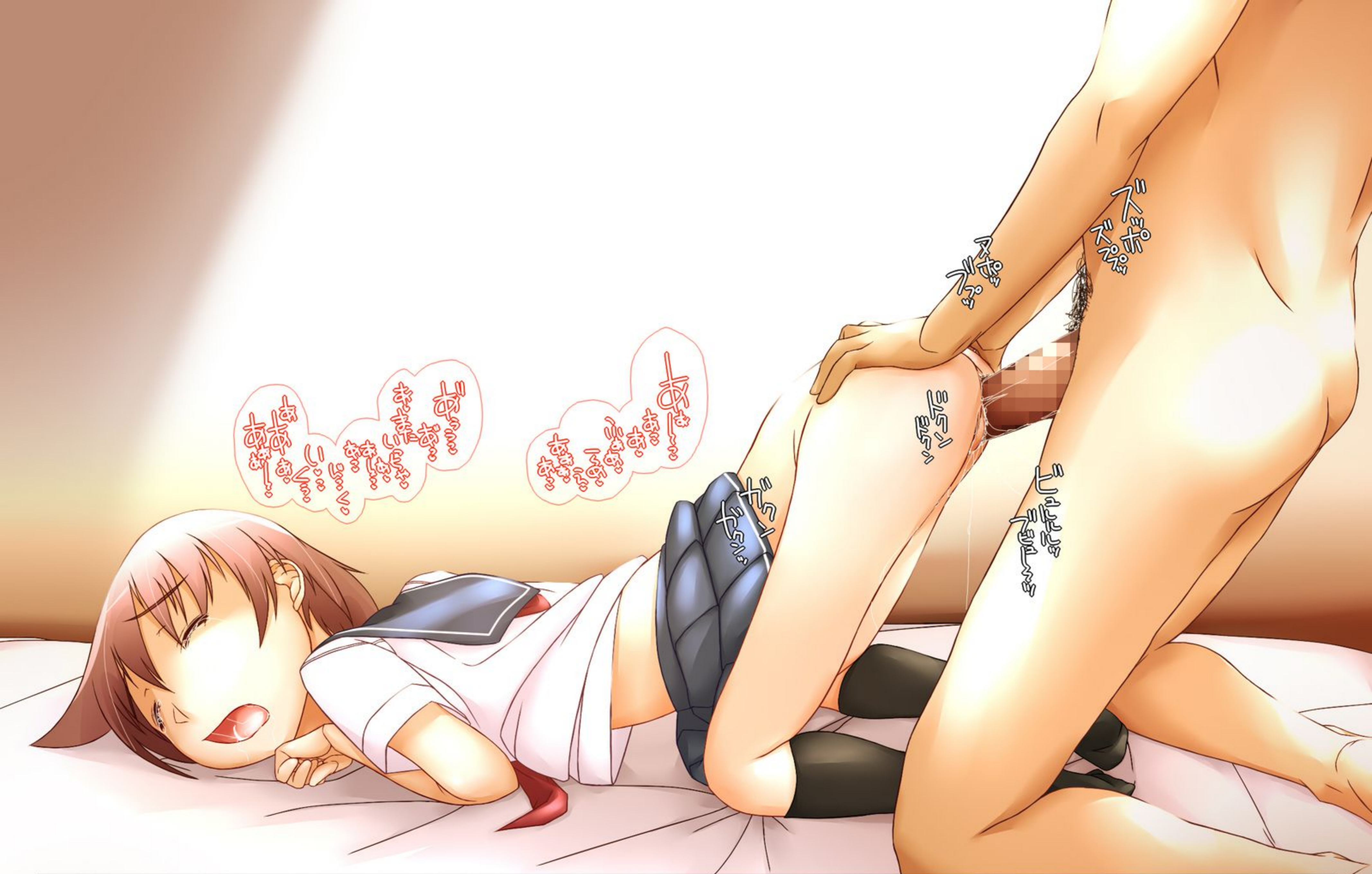
ぐんぐん
ぐんぐん
ぐんぐん

ぐんぐん
ぐんぐん
ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

シミひとつなくすべすべした咲ちゃんの下半身に、異臭を放つ薄汚いチンコをすいつける。おちんちんが大好きになってしまった咲ちゃんは、嬉しそうにお尻を振って挿入をせがむ。



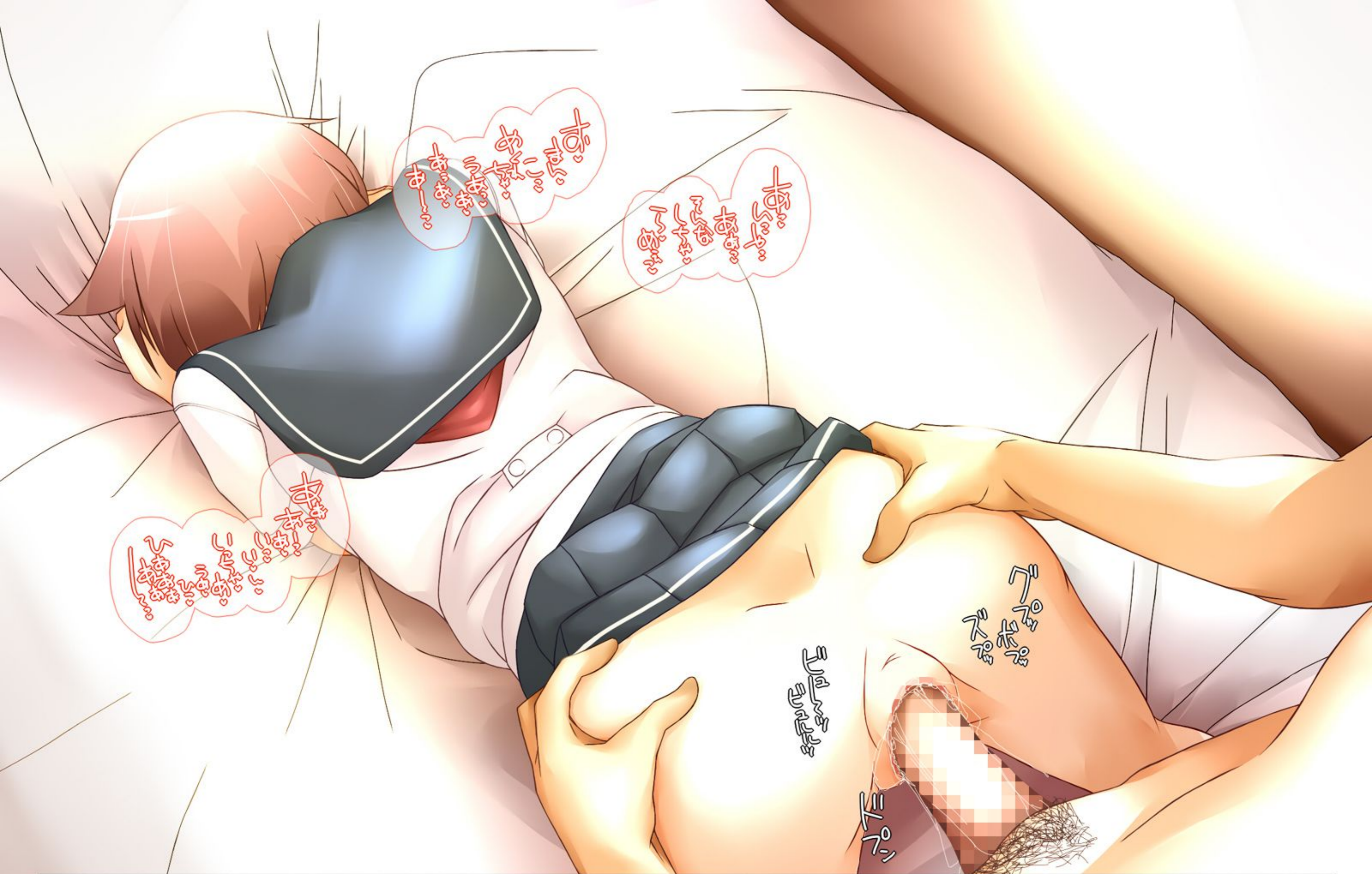
うつ伏せにして背後から挿入すると感じやすいのか、挿入しただけでも軽くイってしまう。
おなかの内側で干コを滑らせるだけで簡単に達してしまい、背筋をねじって悶えまくる。



射精が近づき激しいピストンを加えると、咲ちゃんは呼吸も出来なくなり喘ぎ声が途絶える。ほとんど死に掛けの咲ちゃんに思い切り精液をぶちまけてあげると、ようやく蘇生する。



互いの顔が見えないせいで気が緩んでいるのか、咲ちゃんは平然と淫らな要求をしてくる。千コの裏筋で股間をピタピタと叩き、さんざん焦らしてから柔らかい凹みに埋めていく。



千コは小刻みな動きを繰り返し、咲ちゃんの愛液でとろとろしたマンコの中を這い回る。
お尻の肉を腰に打ちつける激しい挿入で、マンコに巻き込んだ空気がはたいた音を鳴らす。



いつ子宮に出した分かわからない精液が、咲ちゃんのオマンコから漏れてシーツに滴る。咲ちゃんは少し拗ねた声を出して、性感を開発されすぎた自分の体に対する不安をもらす。



マンコへの挿入前に、何度も亀頭で肛門をつついていたせいかわ、咲ちゃんに釘をさされる。今日のところは諦めて、もうずっとぐしょぐしょになったままのマンコに陰茎を埋める。



咲ちゃんはマンコの感触に飽きられないよう、招き入れたチンコをキュッと締めつける。
ぐにゅぐにゅとした感触が硬直したチンコに密着し、圧迫して精液を搾りとりとうとする。



かえって自分が気持ちよくなってしまった咲ちゃんは、射精させるより先にイってしまう。
今まで知らなかった快感までマンコから得てしまい、ますますいやらしい体になっていく。



うつ伏せになった咲ちゃんの上から背中に覆いかぶさり、じわじわと体重をかけていく。
今にも押しつぶされそうな咲ちゃんの乳頭を指で弾きつつ、陰裂のスジにチンコをあてがう。



咲ちゃんは背中から抱きかかえられ逃げられない格好のまま、膣内に精液を吐き出される。見知らぬ相手に無理やり犯されているような気分がしたのか、感度が余計に上がってしまう。



連続してやりすぎたため、少しくたびれてしまった咲ちゃんの体を腹の上に仰向けに乗せる。寝そべったせいで平たくなった小さなおっぱいの肉を、手のひらに集めて握み、もみしだく。



咲ちゃんに挿入したチンコの動きが激しくなるにつれ、おっぱいを握る力も次第に強くなる。みみずばれの跡が残いそうなほどきつく握り締め、痛みに悶える咲ちゃんの胎内に射精する。



「さっさと
お尻を
洗って
あげよう」

「さっさと
お尻を
洗って
あげよう」

「さっさと
お尻を
洗って
あげよう」

「さっさと
お尻を
洗って
あげよう」

「さっさと
お尻を
洗って
あげよう」

咲ちゃんは乱暴な扱いをされたにも関わらず、今までどおり何の問題もなく感じてしまう。もう何をされようと性的な刺激として受け入れるメス豚の体に成り果ててしまったらしい。



いよいよ勃起が弱くなってきたので気分を変えて、咲ちゃんにオナニーをしてもらう。
慣れない手つきで恥ずかしいお肉を指でつまんだり、こすったりして、愛液を分泌させる。



陰核を包皮の上から指で押したいねじったまま、咲ちゃんの中に挿入する。
オマンコの内側と外側から感じる部分を刺激され、咲ちゃんは何度もイってガクガクする。



ほんの一日であまいにたくさん射精しすぎたせいか量の減った白濁液に、血まで混じいだす。それでもなお、咲ちゃんはマンコから愛液と精液を垂らしつつセックスをおねだりしてきた。





















































































































































































































































































